



境内の花々



## INFORMATION

わすれなのかね

### 勿忘の鐘

於：徳泉寺本堂

3月11日(日)

14:46 撞鐘

勤行

茶話

勿忘の鐘 三・一 法要

真宗大谷派各寺院では三月十一日東日本大震災の発生時間に合わせ「忘れること勿(な)かれ」と鐘を撞き、法要を行っていきます。あの日あの時に手を合わせましょ。

## 同朋会コーナー

二月同朋会より

住職法話 『生死一如(しようじいちによ)』

美里町「玉蓮寺」のご住職が亡くなる前、お婿さんである副住職のお念仏を聞いて「あなたのお念仏は五十パーセントだね」とおっしゃったそうです。それは、まだ未熟だという意味ではなく「お念仏は称えるだけでは五十パーセント。聞く、受けとめるということが大事なのだよ」という意味でした。これと似ているのですが、私たちの命において「生」と「死」とはどちらかひとつでは五十パーセントではない。「生」と「死」は同じひとつのことであり「死」によって初めて「生」が生き生きと意識されるといふことがあります。あたりまえにしている「生」をあたりまえのまま、大切にしていけたらと思います。

前住職法話一部抜粋 『歎異抄第十五章』より

歎異抄は親鸞聖人の弟子、唯円が親鸞聖人の教えが「異なつて」伝わっているのを「嘆き」書き残した書物です。この第十五章では「生きていく間に自力で悟りを開く」ということを問題にしています。私たちは縁によつては善悪を選ばずなんでもしてしまう身を生きています。その身や生活を離れて、悩みや苦しみが全部なくなることがたすかるということではなく、生活の中で、そこに生きる意味を見い出して生きていける人になる。親鸞聖人が歩まれたのはそういう道ではなかったでしょうか。

### 次回 同朋会案内

三月十日(土)午後一時～

茶菓代 500円

持ち物 (あれば) 勤行本

数珠 じゆず

どなたでも参加できます。

とくほう

### 『徳泉寺報』後記

「このお便りは誰が書いているの?」と聞かれることが多くなってきました。

編集長は住職の妻です。真宗では住職の配偶者を「坊守(ぼうもり)」と呼びます。😊

ご意見ご感想お待ちしています。